

近藤原子力委員会委員長の海外出張報告

平成 25 年 10 月 29 日

1. 目的

10月22日(火)から24日(木)にアブダビ(アラブ首長国連邦)で開催された第6回国際原子力エネルギー協力フレームワーク(IFNEC)運営グループ会合及び第4回IFNEC執行委員会会合(閣僚級会合)に出席した。また会合期間中、加茂在アラブ首長国連邦大使を表敬訪問した他、ポネマン米国エネルギー省副長官をはじめとする各国の出席者との意見交換を行った。

2. 日程

10月21日(月) 成田発

10月22日(火) アブダビ着

10月23日(水) 第6回IFNEC運営グループ会合 に出席

10月24日(木) 第3回IFNEC執行委員会会合(閣僚級会合) に出席

10月25日(金) アブダビ発

10月26日(土) 成田着

3. 結果概要

(1) 10月23日(水)及び24日(木)にアブダビで開催された第6回IFNEC運営グループ会合及び第4回IFNEC執行委員会会合に出席した。執行委員会では日本政府代表として挨拶を行った。挨拶では、UAE政府の周到な準備に感謝した後、福島第一原子力発電所における廃炉に向けた取組、その一部としての汚染水の管理問題、人々に避難をお願いした汚染された地域の復興への取組の現況について述べ、これまでの世界各国の支援に対して改めて謝意を表するとともに、前代未聞の取組も少なくないことが予想されるので、引き続き知恵の面でもご支援を期待しているとした。ついで、国内においては、原子力規制委員会による新しい規制基準決定を受けての原子力発電所再稼働に向けた取組が進められ、政府において今後の原子力政策の在り方に関する検討が行われていること、政府としては世界の原子力安全に貢献すること、その一環として我が国の原子力発電技術を使いたい国に対しては協力を惜しまないとしていることを紹介した。そして、最後にIFNECの今後の在り方について、原子力発電を安全性、核セキュリティ、核不拡散を確保しつつ利用したいとする国々が対話により様々な分野における経験を交流すること及び、そのような原子力発電の利

用を進めるために有効な革新的な取組を共同して探索するフォーラムとして継続させていくべきとした。

この最後の点は、前日の運営グループ会合で議長のマクギニス氏から、このフォーラムの今後の在り方について見直すべき時期が来たとして、いくつか具体的なアイデアの開陳があった一方で、メンバーに対してこのフォーラムを活用する取組を積極的に主催することを慫慂する発言がなされたことを踏まえて、我が国の考えを明らかにしておくべきと考え、急遽追加したものである。

なお、この会議の内容については、運営グループ副議長として参加した中野審議官から別途報告されるので、ここでは触れない。

(2) 二つの会議のマージンで、米国エネルギー省のポネマン副長官、フランス原子力再生エネルギー庁のビゴー長官と意見交換を行った。その中で大事と思った点は以下のとおり。

- ・ 福島のオフサイト、オンサイトの復興の取組に対しては、知恵・技術の面で持っているものは何でも提供することを基本に引き続き支援したい。
- ・ 汚染水問題については、水の扱いは人々にとってなじみのあることであるから、それを失敗することは世論に著しいダメージを与えるとの認識が重要。貯めているだけでは問題が解決しないことも誰にでも分かること。だから、こうすることが日本にとって一番の解決策とするところを専門家がきちんと議論して決定し、それを国民に丁寧に説明し、実施していくことが大切。
- ・ 再稼働に関しては、国民の信頼が大切ではないか。防潮堤の高さを高くしたり、断層の評価に科学的合理性を求めることは大切だが、それだけで国民の信頼を獲得していくことができるのか。各種の事故調査報告に示されている教訓の当否をコメントする立場にはないが、書かれているということはそう見える要素があったということだろう。そのことを経営のトップがきちんと受け止め、経営を革新していくことが大切ではないか。

(3) 加茂大使を表敬訪問し、アラブ首長国連邦の現況について所見を伺った。その要点は以下の諸点：

- ・ 同国は豊富な石油収入を背景に活発な対外投資（特にアブダビ）を行なうと同時に、石油モノカルチャー経済からの脱却を図っており、製造業やサービス業等産業の多様化に努めている。
- ・ 人口は800万人程度であるが、長期滞在し就労している外国人の割合が極めて

大きいことが特徴。

- 日本は長期間に亘って同国の石油の多くを継続的に輸入していることや高品質の工業製品を輸出してきたことから、信頼されている国といえるが、このところ中国、韓国が進出が著しいことも事実。
- 原子力については福島危機をきちんと克服し、さすが日本と言われるようにすることが重要でないか。関係者の努力を期待している。